くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

3月1日（No.53・ウグイス鳴いた？号）

2009 * 3月

NPO法人エコシティ志木
代表理事　天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
http://www.cc.e-mansion.com/~eco/

写真：天田 眞

勝手にレッドデータ of 志木（39）

サワガニ

昨年の秋、こもれびのこみち斜面林の手入れ作業で林の中の大量のごみを撤去していた時、何と、ごみの下から２匹のサワガニが出てきた。

サワガニは埼玉県の低地帯では絶滅危惧種に指定されているが、平成７年度の市の自然環境調査でも確認されず、志木では絶滅したかと思っていた。しかし文献によれば、湧き水が何ヵ所もあったこの場所には昔はサワガニが多く棲み、斜面を下る坂は「カニ坂」と呼ばれていた（『志木風土記第一集』志木市市史編さん室、昭和55年）そうだ。

（天田 眞）

1/11（日） 県内一斉ガンカモ調査

毎年恒例の埼玉県生態系保護協会主催「県内一斉ガンカモ調査」が行われ、参加した同協会志木支部、富士見支部に調査協力をしました。

当日は気温３℃、柳瀬川の水温14℃と快晴ではありましたが、非常に寒い調査日になりました。志木大橋から市役所の先の新河岸川との合流地点まで約２kmを参加者16名と東京農業大学の学生３名で歩いて種類と数を数えました。

県内全体のカモは、17種33,803羽で、昨年18種34,848羽からは、１種類減、1,045羽減でした。

柳瀬川では、カモは６種243羽で、昨年と種数は２種類減り、数も約31羽減少で昨年の274羽を下回る過去最少でした。内訳は次のとおりです。（　）は昨年

１．ヒドリガモ	91羽	（65羽）
２．オナガガモ	53羽	（92羽）
３．コガモ	64羽	（46羽）
４．カルガモ	30羽	（61羽）
５．マガモ	５羽	（８羽）
６．ハシビロガモ	０羽	（１羽）
７．アメリカヒドリ	０羽	（１羽）

春日部や入間川の方たちの話で、自然が残されている川ではカモの数が激減しており、代わって公園など人が餌を与えたりする場所や、川でも人工護岸が行われている場所で増えているとのことでした。柳瀬川でも自然が保たれているためにカモが減っているのなら喜ばしいことですが、昔は自然の中に数多くいたわけで、カモの生態が変わったのでしょうか。（山崎光久）

2/7（土） 冬の渡り鳥を見てみよう

こどもとおとなの自然塾（第４回）

当日は快晴無風の暖かい観察会になりました。集まったのはおとな19名と、残念ながらこどもさんの参加は１名しかありませんでした。

柳瀬川に沿って、カモ類では、ヒドリガモ、コガモ、カルガモ、マガモ、セキレイ類ではキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ等合計24種類の野鳥が観察されました。アメリカヒドリは昨年につづき見ることが出来ませんでした。

観察会の途中で２回**カワセミ**が飛んでいるのに出合いました。１度は川の中ほどでほんの少しの間でしたがホバリング（停空飛行）を行いました。

また、ワイス裏の中洲で**タシギ**を２羽久しぶりに観察しました。

ワイスの工場は長谷工コーポレーションに売却され、マンション建設等のために昨年暮れから建物の取り壊しが始まりました。その騒音のためでしょうかワイス裏ではカモ類の数が極めて少なくなりました。また、ジョウビタキなども工場敷地と柳瀬川の間を行き来していましたが、今年は見ることが出来ません。

観察会の後で、埼玉県作成のリーフレットを使って「**野生動物に餌を与えないで**」のお願いをしました。

カモに餌を与えると、①人の食べ物は栄養価が高く、太りすぎてシベリヤへ帰る体力がなくなる。②人を恐れなくなるのでシベリヤで簡単に捕まって食べられてしまう。③鳥ウイルスに感染する危険性がある。等カモのためにも人のためにも良いことはなく、上野の不忍池でも同様のお願いがされています。　（山崎光久）

2008年　柳瀬川ウオッチング(野鳥調査)の記録

2008年は12回の調査で49種類の野鳥を確認しました。

渡り鳥のカモ類が種類も数も減少しつつあります。でも久々にムナグロが姿を見せてくれました。　（毛利）

●調査方法

1）毎月第３日曜日、午前９時～12時に実施（悪天候の場合は中止）
2）一定の速度で歩きながら半径50mの範囲を目安に出現した野鳥の種名と数を記録。
3）コース
志木中学校前 → 高橋 → 栄橋 → 旧柳瀬川 → 高橋 → 柳瀬川旧堤防 → 水谷田んぼ → 富士見橋 → 志木中学校前

※ 本調査は 1997年６月より行っています。

＊主催＝NPO法人エコシティ志木／（財）埼玉県生態系保護協会志木支部

鳥	名	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月
1	カイツブリ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	カワウ	1	0	0	3	1	4	4	2	5	6	0	0
3	アオサギ	1	0	0	3	1	2	2	4	2	3	2	1
4	ダイサギ	1	0	0	4	0	0	0	6	1	2	2	0
5	コサギ	1	1	3	23	3	0	3	3	4	1	1	2
6	ゴイサギ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
7	マガモ	3	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4
8	カルガモ	23	24	18	11	10	24	26	16	54	19	16	22
9	コガモ	48	44	20	3	2	0	0	0	0	15	21	27
10	ヒドリガモ	25	42	36	0	0	0	0	0	0	0	34	18
11	チョウゲンボウ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1
12	キジ	1	0	0	0	3	2	1	0	0	0	0	3
13	コチドリ	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
14	イカルチドリ	33	7	8	1	0	2	13	24	28	8	16	59
15	イソシギ	9	5	4	2	0	0	0	7	8	2	5	6
16	タシギ	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
17	ムナグロ	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0
18	ユリカモメ	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	セグロカモメ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	キジバト	28	13	9	1	13	16	13	10	10	0	2	10
21	カワセミ	0	0	2	1	1	0	0	0	1	0	0	1
22	コゲラ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
23	ヒバリ	8	5	11	7	6	0	1	2	0	7	7	9
24	ツバメ	0	0	0	15	18	15	18	21	24	0	0	0
25	キセキレイ	6	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	3
26	ハクセキレイ	13	22	25	5	3	5	3	9	3	12	17	16
27	セグロセキレイ	4	6	0	2	0	0	0	2	0	1	1	4
28	タヒバリ	11	10	4	5	0	0	0	0	0	0	7	18
29	ヒヨドリ	29	3	16	6	1	2	5	3	4	15	18	36
30	モズ	5	1	1	2	0	0	0	0	1	2	1	3
31	ジョウビタキ	0	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32	ツグミ	14	15	19	5	0	0	0	0	0	0	0	1
33	ウグイス	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34	オオヨシキリ	0	0	0	0	10	18	2	0	0	0	0	0
35	セッカ	0	0	0	0	2	3	3	5	0	0	0	0
36	シジュウカラ	2	2	7	9	3	5	0	4	4	3	1	3
37	メジロ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	1
38	ホオジロ	6	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
39	ホオアカ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40	カシラダカ	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
41	アオジ	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
42	オオジュリン	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
43	カワラヒワ	21	35	10	5	3	2	2	3	0	0	10	39
44	シメ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45	スズメ	164	61	71	64	75	57	59	95	146	54	52	91
46	ムクドリ	71	73	50	50	25	58	155	55	80	0	5	19
47	オナガ	0	0	0	0	0	0	1	14	0	0	0	0
48	ハシボソガラス	8	1	3	3	2	6	0	1	1	0	0	7
49	ハシブトガラス	7	4	12	8	5	10	5	6	0	1	26	16
	ドバト	14	15	4	27	7	36	0	4	5	2	0	7
	アヒルの仲間	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0

冬鳥

柳瀬川ウォッチング
≪川の生き物調査≫２００８年の報告

毎月第 3 日曜日の柳瀬川ウォッチングの川の生き物グループは志木中学校前の河川敷を拠点に次のような活動をしています。
① 川岸の魚類等の網による捕獲調査
② 浅瀬の礫の下の底生生物の捕獲調査
③ 水温･COD･EC による簡易な水質調査
④ 河川敷や川岸のごみ拾い

ここでは、月例調査に総合学習等の際の結果も含めて 2008 年の概要を報告します。

（１）魚類等の調査結果

水際に草が生えているようなところに棲む生物を足で追い出し、手網（かまぼこ型のたも網）で捕獲します。最近は、スタッフ不足等もあり、投網による調査は行っていないため、アユ、オイカワ等、川岸に近づかない魚類は対象外です。

魚類	多	ウキゴリ、ヌマチチブ
	中	ギンブナ、モツゴ、メダカ、カダヤシ、グッピー、マハゼ、ドジョウ
	少	トウヨシノボリ、スミウキゴリ、ウナギ、タモロコ、キンギョ、ギバチ（初）、ウグイ（幼魚）
甲殻類	多	ヌマエビ類（ヌカエビ含む）
	中	テナガエビ、アメリカザリガニ
	少	スジエビ、モクズガニ
昆虫(ヤゴ)	多	ハグロトンボ
	中	シオカラトンボ、コヤマトンボ、コオニヤンマ、ギンヤンマ
その他		ミシシッピアカミミガメ、クサガメ、ウシガエル（オタマジャクシ）

（２）底生生物の調査結果

主な調査場所は浅瀬で流れが速く小さく波立っているようなところで、石を動かし下にいる虫を下流側に据えた目の細かな網に流し込むようにして捕獲します。

昆虫（幼虫）で多いのがサホコカゲロウとシロハラコカゲロウ等のコカゲロウの仲間、次いでエリユスリカやシマトビケラの仲間。その他の生物で多いのがウズムシ（プラナリア）、次いでヨコエビ、ミズムシ、シマイシビル、貝類ではサカマキガイとモノアラガイ。ウズムシやヨコエビには外来種が多いとのことですが正確な種は同定できていません。

底生生物の生息状況から見た水質は「少し汚れた」状態と判断されます。

（３）水質の調査結果

水温は最高が 25℃（7、8 月）、最低が 15℃（1、2 月）で、特に冬期の高さが特徴です。

COD（化学的酸素消費量：有機物の指標）は８mg/l まで測定できる試薬で 8 又は 8 以上（所定時間の少し前に 8 の色に達しており、本来は希釈して測定すべきだが 10～12 程度と推定）で、季節変化は不明。

EC（電気伝導度：溶存イオンの指標）は最高が 420～430 マイクロジーメンス/cm（1～3 月）、最低が 300（8～9 月）で、冬期が高くなっています。

水量の 6 割以上が清瀬水再生センター（下水処理場）の放流水であり、市内の他の河川や柳瀬川の中上流域に比べ、水温・COD・EC 共に高く、水質は良いとは言えません。

（４）河原のごみ拾い

志木中学校付近を中心に埼玉県の河川清掃ボランティア「水辺の里親」制度に登録していますが、この範囲に関わらず、主に水際と刈残し部分のごみを拾っています。対岸に比べてひどい不法投棄は少ないですが、河原での飲食や釣り人に伴うもの、また、大雨で増水した際には大量のごみが漂着します。ごみ拾いは毎月の定例日以外も随時行っています。

（天田 眞）

2/8（日） 川でつながる発表会（第5回）

主催：新河岸川流域川づくり連絡会　会場：自由学園記念講堂

私の母校の自由学園で開催されました。午前は学生の案内で南沢と呼ばれる武蔵野の地形を生かした校内を散策しました。

校内を流れる立野川は、平成の名水百選に選ばれた南沢湧水群を水源に落合川から黒目川へと流れています。在学中も学生の手で校内井戸の水位調査、水源地までの立野川の水質等の定点観測が続いていましたが、当日は1965年の「立野川の浄化の研究」が映画化された「水清きふるさとを　私たちの郷土調査」が上映されました。高度成長期で汚染された立野川を元の姿に戻したいと、調査・分析し、浄化に向けた提案を行っており、「今我々が取り組んでいることが全て当時行われている！」と会場は驚きと感動でした。

発表は小学１年生から大学生まで、内容も素晴らしかったですが、プレゼンテーションの手法が、寸劇ありドラマ仕立ての河川探検記ありで、堂々とした発表と、場を楽しむゆとり、表現力の豊かさに総合的な学習の時間の成果を感じました。川を通じて会場は子どもから大人まで一体となり、共に人を育て川を育てる温かさが感じられました。

志木市では宗岡三小が展示による参加でしたが、環境教育の効果と可能性を実感できました。

（天田いづみ）

2/22（日） 身近な川の一斉調査報告会2008　＆　川の恵み～川魚料理の復活～シンポジウム

毎年、新河岸川水系水環境連絡会（当会も加盟）が主催しているイベントです。

前半は、毎年６月に実施している**「身近な川の一斉調査報告会」**について、新河岸川流域ではＳＰＳＳという解析ソフトにより水質指数を設定して調査結果が分かりやすくなったこと、全国では現在の動向や他流域の事例紹介、等の報告と意見交換が行われました。

今年度の報告結果の流域マップには、新河岸川流域しんぶん「里川」の表紙に掲載されている毛利将範さんの切り絵が多数載っています。

後半の**「川の恵み～川魚料理の復活～シンポジウム」**では、当初参加を予定していた埼玉南部漁業協同組合が残念ながら欠席でしたが、「地元の川魚（特にアユ）が食べられる川づくり」と「サケ等の流域外魚類の放流の賛否」をテーマに、参加者全員によって活発な議論が行われました。なお、新河岸川水系水環境連絡会として「サケ等の流域外魚類の放流については賛同出来ない」ということで見解を統一いたしました。

（伊藤智明）

志木のマンホール蓋について

たまには足元も見てみよう

飯塚　伸夫

はじめに

足立町のマンホール蓋について、勝手にレッドデータに書きましたが、それを探しにいった時に、志木地区のマンホール蓋の写真を撮りました。その後の補足で調べたことも含めて、「志木のマンホール」について、書いてみます。

マンホールとは

道路によくある丸い鉄製蓋(フタ)を「マンホール」と呼んでよんでいますが、正確にはマンホールの蓋です。マンホール(manhole)は、日本語の直訳が「人孔」で、地下の下水道・暗渠・電気・通信ケーブルなどの管理をするために人が地上から出入りできるように地面にあけられた穴でのことです。下水の例で地面の下は、図-1のようになっています。また、マンホールでなく、より小さいサイズの人が入らない枡、栓、弁などの蓋もありますが、ここでは、これらの蓋も合わせて紹介します。

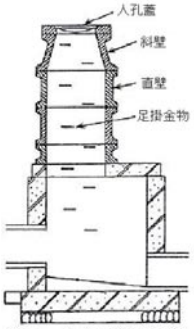


図-1　人孔の断面図例

下水道のマンホール蓋

下水には、次の3種類があります。

表-1　下水道の種類

方式	管名	備考
分流式	汚水管	下水処理場へ流下
	雨水管	河川などへ放流
合流式	合流管	志木にはない

最近の志木の下水道マンホールには、汚水と雨水の区別がしてありますが、古い雨水には表示されていないものがあります。よく解りませんが、建設された時期によって、デザインも異なっています。

写真-1　足立町雨水
（当時は汚水はない）

写真-2　志木市雨水
足立町と同じデザイン

写真-3　雨水
人が8人に見える

写真-4　雨水
蜂の巣状の網目

写真-5　汚水
蜂の巣状の網目

写真-6　汚水?
竹かごみたいな網目模様

写真-7　汚水　ｺﾝｸﾘｰﾄ
鉄にスリップ防止で
ｺﾝｸﾘｰﾄをｺｰﾃｨﾝｸﾞ　市章つき

写真-8　汚水
市の花　つつじ
同じデザインで雨水も

下水宅地枡蓋

個人の敷地内には、公共の下水道へ接続する枡があります。写真の他にもいろいろなものがあるようです。書いてないものは、古い貯水槽や井戸などの可能性もあります。

写真-9　市指定宅地枡

写真-10　雨水宅地枡

写真-11　汚水宅地枡
小さく市章と「お」

写真-12　たぶん宅地枡

電話マンホール蓋

電電公社からNTTになっての変化か見られます。電話のTのデザインだとおもいます。鍵がかかっていて、下水ほど簡単に開けることはできないそうです。

写真-13　電電公社

写真-14　NTT

消火栓と防火水槽の蓋

消火栓は道路上に多く、防火水槽は建物の敷地内によくあります。消防水利から5ﾒｰﾄﾙ以内が駐車禁止なので、黄色線で明示してあり、他の蓋に比べてわかりやすいです。

写真-15　消火栓
消防士がカワイイ

写真-16　本町の消火栓
なぜか東京都の紋章

写真-17　防火水槽
志木市消防本部ﾏｰｸ

写真-18　角型消火栓
蝶番つきです

その他の蓋

他にも沢山あるとおもいますが、珍しいものをいくつか紹介します。

写真-19　大東ガス
ガスにはマンホールはありませんので、なん目的でしょうか。

写真-20　水道
空気弁は、水道管内に貯まった空気を抜き、通水障害を防止します。

写真-21　電力
電と書いてありますので、電話の可能性がないわけではありません。普通なら電力です。

写真-22　共同溝
電線地中化をしたところでは、いろいろな埋設物をいっしょに収めています。

金子秀樹の

農業日記〈1〉

今年１年、稲作中心の農作業について連載することになりました金子です。

農家を継いで、まだ数年しか経っていないので、農作業について解らないことが多く、田んぼに行って諸先輩たちに聞きながら農作業をやっている状態です。

さて、先日（２/15）、稲作作業の年度始めの行事となります荒川河川敷の耕作者全員で河川敷の野焼きを行いました。

野焼きが始まるといよいよ稲作が始まることを感じます。野焼きの本来の目的は、病害虫の駆除なのですが、最近は不法投棄の防止も加わりました。特に葦原の中は、見えにくいこともありゴミを捨てていく人がいます。本来なら葦原は、野鳥には良い環境なのですが、困ったものです。なお、葦原が目立ってきたのは休耕田が多くなった為で、農業後継者の問題も関係しています。河川敷で農作業を行っている主な世代は60歳以上ですから。

以前から機械化が進んできましたが最後に残った、くろ（畦）付け作業が機械化されたことで農作業もずいぶん楽になりました。

以前は、水を入れた田んぼを軽く耕作し、やわらかくなった土を、手でくろ（畦）に盛り鋤でならしていくのですが、水を入れた田んぼに足は取られるし、腰は痛くなるし田植え前の作業で、くろ（畦）付けが一番大変でした。私のところも、くろ（畦）付け作業を委託しています。

（宗岡では、畦のことを「くろ」と呼んでいます。見た目が黒いからなのかもしれません。）

野焼きも終わり、これから肥料蒔き、くろ（畦）付け、種まき、水路の掃除と一連の稲作作業が続いていきます。

農作業を始めて気がついた点が2つほどあります。

ひとつは、トラクターで耕作しているとえさを求めていろいろな鳥がトラクターの間近に集まってくることです。

１月にはタゲリを見ました。１m程度まで寄ってくることがあります。普通、鳥が人に近づいてくることは無いのですが、耕作中は安全で、しかもえさが取れることを鳥は知っているのかもしれません。また、最近、農薬等を散布することが無くなり小魚等のえさが増えたのかも知れません。

野焼き前

野焼き後

もうひとつは、収穫時期が早くなり、また冬の空っ風が弱くなったことです。

収穫時期については、例年９月に刈り取りしていたのが、ここ数年は8月末に刈り取りが始まっています。1週間から10日近く早くなったと思います。

また、冬の空っ風については、田んぼが乾かなくなった事で実感します。通常、このころの田んぼは乾ききっていて耕作すると土煙が舞い上がるものですが、最近は土煙が舞うのも少なくなりました。今年は特に雨が多いこともありますが、場所によってはそのまま代かきができる状態です。

ここにも温暖化の影響が現れているのかも知れません。

〈次号につづく〉

●志木 自然インフォメーション●

生き物情報は　Tel/Fax 048-471-4275　Email：qwj11624@nifty.com（毛利）へ
ホームページ⇒http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen-info.html

《鳥類》

ハヤブサ（1）→12/2(火)・1/24（土）に幸町１丁目の東京電力鉄塔で、「キィキィキィ！」と5～6羽のカラスを威嚇【毛利将範】

ハヤブサ 1/24(毛利優介)

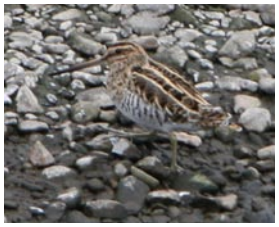
〈柳瀬川＆水谷田んぼで見た鳥【山崎光久】〉
１月15日(木) **カイツブリ**２羽、　**タシギ**２羽
２月７日(土) **カワセミ、タシギ、シメ、セグロカモメ、キセキレイ、タヒバリ**
２月15日(日) **オオジュリン、ホオジロ、ジョウビタキ、ホオアカ、ヒバリ**

《昆虫》

シロハラコカゲロウの亜成虫→2/15(日) 柳瀬川ウオッチングで【坂本滋】‥
〈羽化したばかりでしょう。次の日に脱皮して成虫になります。柳瀬川ではサホコカゲロウの次に多いカゲロウです。天田 眞〉

シロハラコカゲロウの亜成虫(坂本)

オオジュリン 2/15(山崎)


タシギ 1/15(山崎)

環境 ひとくちメモ(12) 伊藤 智明

「柳瀬川流域水循環マスタープラン」

東京都と埼玉県に渡る柳瀬川流域の水循環をよくしていくために、「柳瀬川流域水循環マスタープラン」（事務局：国土交通省 荒川下流河川事務所　調査課））が平成17年３月に策定されています。このプランは、柳瀬川流域の抱える水の諸問題を解決し、より健全な水循環像を創出することで「望ましい流域像：人と水と緑がつながりあう魅力ある流域づくり」を実現していくことを目的として、「流域の緑地・農地の保全」「雨水貯留浸透施設の普及」「下水道整備の推進」「空堀川の河床の遮水工の設置」の4つを基本的な対策として位置づけています。

これらの対策を市民や行政が実施するためのアクションプラン（実施計画）は、平成18年度から検討が進められており、エコシティ志木からも４名が参加しています。今年度（平成20年度）中に完成する予定ですので、完成しましたらまたご紹介いたします。

（詳細）
国土交通省 荒川下流河川事務所 調査課「柳瀬川流域水循環マスタープラン」ホームページ
http://www.ara.go.jp/arage/yanase/index.html

☆会員状況

2008年度更新済み会員（2/22現在）
個人正会員　52
団体正会員　2
賛助会員　　2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★次年度も継続更新をよろしくお願いします。
★宛名シールに会費の有効期間が書いてありますので、チェックしてください。

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会が参加している、または主な協力団体

いろは遊学館利用者の会
グループぽんぽこ
(財)埼玉県生態系保護協会志木支部
志木おやこ劇場
志木市コミュニティー協議会
市内小中学校
新河岸川水系水環境連絡会
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川流域川づくり連絡会（国土交通省）
新河岸川流域川づくり懇談会（埼玉県）

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ
http://www.cc.e-mansion.com/~eco/

志木まるごと博物館「河童のつづら」
http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/

志木市立郷土資料館の 農具 その6

マンゴク

つき米と糠をふるい別けたり、米の選別に使われた。また、フルイやトウミで選別した麦を更に選別し、麦粒の大きさや品質を揃えることに使用した。

当館のマンゴクの形状は、篩長（フルイの長さ）120cm、足長90 cmである。金網を張った長方形の木枠に足をつけ傾斜させ、滑り台のような篩の上を麦を流し選別した。篩の目はいくつかの大きさがあって、目的によって交換し、脚をずらすことで篩の勾配を変え、穀類の流れる速度を調節できる。

流された麦は、カラがとれた粒は金網を通過して下に落ち、カラやシイナは網目を通らずに篩の下端まで落ちる仕組みである。

【執筆・撮影協力】
志木市立郷土資料館
〒353-0002中宗岡3-1-2　☎ 048-471-0573　月曜日休館

昔の風景
今の風景

7

60年前の柳瀬川を空から見る

昔

↑昭和23年（1948年）に米軍によって撮影された写真

今

↑Googleマップに現在掲載されている写真

Googleマップに現在掲載されている写真と、国土変遷アーカイブ空中写真閲覧システムに掲載されている昭和23年（1948年）に米軍によって撮影された写真です。

昔は柳瀬川のまわりが田んぼだったのが、今では左岸の富士見市側（水谷田んぼ）が残るのみとなっています。また、昔は斜面林がたくさんあり、台地と平地の境目である崖線がはっきりとわかりましたが、今ではその境目もわかりにくくなっています。

「統計しき　平成19年版」によると志木市は、大正９年（1920年）に約6,300人だった人口が、昭和25年（1950年）には約10,000人、昭和55年（1980年）には約51,000人、平成17年（2005年）には約67,500人と、急激に増加しているのがわかります。

こうして写真を見ながら数字を調べてみるのも面白いですね。また、昔から住んでいる方にこうした写真を見ながら昔話をお聴きしてみたいですね。

（伊藤智明）

（画像出典）　Googleマップ　http://maps.google.co.jp/
国土変遷アーカイブ空中写真閲覧システム　http://archive.gsi.go.jp/airphoto/

新年度に向け、役員や活動スタッフを募集します

●役員として会の運営に関わりませんか？

当会の役員には**理事**と**監事**（ともに任期１年）があり、年に数回の理事会や毎月の運営委員会で、会の事業の企画運営や法人組織の運営に関わる事項を協議・執行しています。

５月に開催する定期総会での役員改選に向け、役員候補者を公募します。

理事を10～15名、**監事**を1～2名公募します。

応募・問合せは４月５日頃までに下記の代表理事天田までご連絡下さい。

●スタッフとして活動に参加しませんか？

スタッフとして事業の運営に参加できる方を募集します。

当会の各種事業の企画や実施時の運営スタッフは役員でなくても誰でも務められます。最近の活動はどの事業もぎりぎりのスタッフ運営しているのが現状です。経験や知識がなくても参加することで身につきます。

環境や**まちづくり・地域福祉**等の分野で当会をベースに新しく活動してみたい方、大歓迎です。

ヒナを拾わないでください！！

春から夏にかけて多くの野鳥が繁殖期に入り、卵を産みヒナを育てます。

そんな折、ヒナが地面に落ちていることがあります。

野鳥のヒナの多くは、卵からかえって羽が生えそろうとすぐに飛び立つので、巣から飛び出す段階では上手く飛べなくて落ちるものもいます。たいてい親鳥が近くにいて給餌や誘導をするうちに飛べるようになりますが、人がいると警戒してやってきません。

そっとしておいてあげるか、近くの茂みの中にでも置いてあげてください。

（ヒナを拾わないで！！キャンペーンから）

編集後記

◇サイサン環境保全基金助成事業の「志木ぶらり散歩マップ」が３月中に完成します。会員の皆さまにもお届けいたしますのでお楽しみに。

◇来年度はこのマップを活用して、宗岡地区の堤防や水塚を訪ね歩く予定です。

（ふくろう）

エコシティ志木通信
第53号・2009年３月１日
〈発行〉
NPO法人 エコシティ志木
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338（天田眞）
URL http://www.cc.e-mansion.com/~eco/
E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com